



# 「農業は大きなビジネスチャンス」 ～ サラダボウルの戦略と具体的な取組 ～

農業生産法人 株式会社サラダボウル  
NPO法人 農業の学校  
田中 進

# ■目次

## 1. 農業生産法人(株)サラダボウルの取組の紹介

- ・会社概要
- ・サラダボウルの特徴と戦略
- ・DVDにて紹介

## 2. 農業は本当にビジネスチャンスなのか？

- ・「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の視点から検証

## 3. 農業の構造的課題

- ・収益性の低さの要因

## 4. 強い農業現場を構築するための『10のキー・ファクター』

- (1)プロジェクト・アウト (2)生産工程管理 (3)コスト・マネジメント
- (4)プライス・メイキング (5)見える化 (6)人材育成 (7)適正規模経営
- (8)事業ポートフォリオ戦略 (9)情報管理システム (10)多付加価値化

# 株式会社サラダボウルのご紹介

会社名	農業生産法人 株式会社サラダボウル
創業	1958年（昭和45年）
設立	2004年4月1日
資本金	30,000,000円
業種	農業生産法人
従業員	30名（社員・パート、研修生）
スローガン	「農業の新しいカタチを創る」 農業は幸せ・感動販売業
取引先	らでいっしゅぼーや…有機野菜などのこだわり野菜の全国宅配 パルシステム…有機野菜などのこだわり野菜の宅配 （株）オギノ…山梨県を中心に40店舗程度の展開する地元大手スーパー イトーヨーカドー…主に地元の甲府昭和店に出荷 地元各施設…ホテル・旅館・宿泊施設や飲食店
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の生産・販売</li> <li>・農産物の加工</li> <li>・農作業の請負</li> <li>・農地の管理</li> <li>・農業生産のコンサルティング</li> <li>・グリーンツーリズム</li> <li>・農産物販売の企画・開発</li> <li>・フランチャイズ事業</li> </ul>
圃場面積	施設（とまと・きゅうり等） 2ha（約20,000m <sup>2</sup> ） 露地野菜 16ha（約160,000m <sup>2</sup> ） 水稻 1ha（約10,000m <sup>2</sup> ）
栽培作物	とまと（中玉とまと、大玉とまと）、きゅうり、なす、きゃべつ、ブロッコリー、葉菜類（ほうれん草、みずな、こまつな、チンゲン菜等）、根菜類など年間約30品目

# 株式会社サラダボウルのご紹介

代表取締役：田中 進  
生年月日：1972年2月3日生まれ 41歳  
出身地：山梨県中央市(旧・田富町)  
経歴：山梨県田富町立田富小学校・田富中学校 卒業  
駿台甲府高等学校 卒業  
横浜国立大学経営学部国際経営学科 卒業

## 1994年 株式会社東海銀行 入行(現・三菱東京UFJ銀行)

銀行入行3年目。当時はバブル崩壊後の貸し渋り全盛時代。しかし、その中であって6名だけの役員直轄の特別融資チームに配属された。日々、「融資など必要ない」という超優良企業を相手に、資金ではなく、自分達の価値を買って頂く仕事に向き合う。上司から繰り返し問われる「その企業の特徴は？」の言葉。中途半端な「答え」では帰してくれない。つまり、それはその企業の「強み」であり、「成功の原理原則」は何かという問いかけだった。この繰り返しが、自分の経営の原点作り上げた。

## 1999年 プルデンシャル生命保険株式会社 入社

銀行時代に引き続き、保険だけにとどまらず企業の抱える問題を解決する経営者の右腕として、コンサルティング営業を展開。入社年度よりトップセールスを記録し、社内表彰、及び、世界の生命保険営業の成績上位6%で構成される「MDRT」会員となる。プルデンシャル生命保険2004年度最終成績7位(約5,000人中)。

## 2004年 農業生産法人・株式会社サラダボウル設立 代表取締役

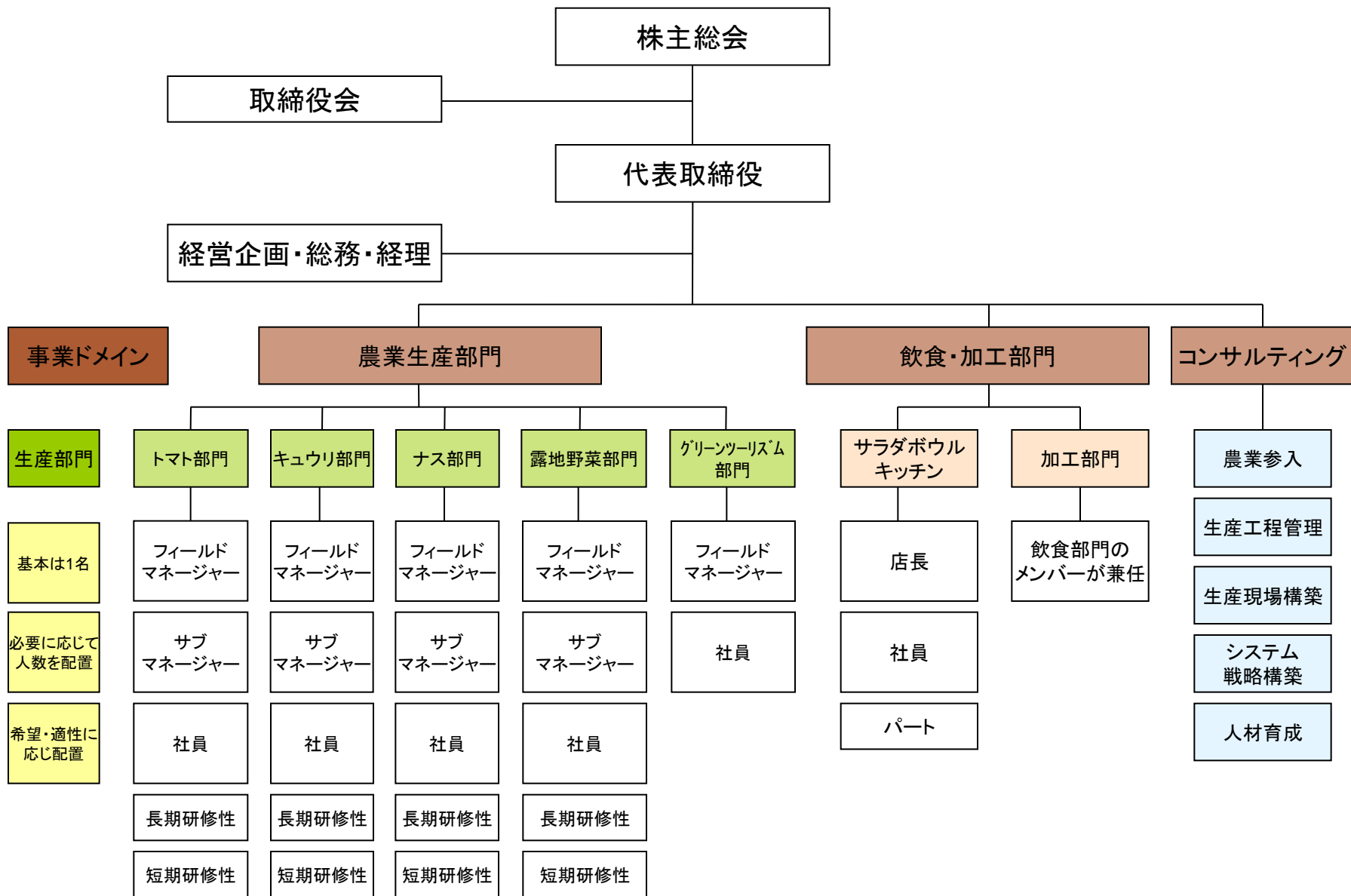
## 2005年 NPO法人農業の学校設立 理事長

【農業生産法人・株式会社サラダボウル】

10年間の金融機関在籍中、様々な業種・業態に係る中で、金融をはじめ、他業界の視点で農業ビジネスを研究し、農業をビジネスチャンスとして実感。支援する企業経営者が自分の「想い」をカタチにし、事業化していくのを間近で見ながら、企業の支援をするだけの立場を抑え込むことができず、自らも起業を決意。2004年農業生産法人を設立し、農業参入を果たす。

「日本の農業の新しいカタチを創りたい」との想いを胸に、借地60aで事業開始。2009.4現在で約10haに拡大し、従業員15名となる。取引先と直接契約を結び、トマト1品目でスタートしたが、現在では年間約30品目に増加。現在も拡大中。設立当初より人材育成に情熱を注ぎ、人材の確保・育成ノウハウを構築。2005,11に農業を志す人間が農業で幸せに生きていける道標を作るべく、「NPO法人農業の学校」を設立し、理事長に就任。全国の生産者をネットワークし、新規就農者の支援を行っている。

次世代の農業の在り方をあらゆる方面に提案し、自らも実行している。



## (1)「ヒト」の視点から検証

やりたい人はたくさんいる

農業をやりたい優秀な人材が増加  
(年間約200人の研修生が来る)



でも、農村部は、高齢化・離農化の一方



ちゃんとやれば、**人材の確保は容易！！**

## (2)「モノ」の視点から検証

## 作る場所はたくさんある

遊休農地は増加の一途、ということは・・・



他業界でいえば、  
工場や店舗がいくらでも選び放題。  
しかも、安く借りられる



こんなこと 通常では**アリエナイ！！**

## (2)「モノ」の視点から検証

買いたい人は向こうからやってくる

食糧不足等により  
国産農産物のニーズの増加



でも、実際には生産現場ではなく  
流通に注目・集中



ちゃんと作れば**お客様が勝手に来る！**



## (4)「情報」の視点から検証

## 情報が集まる

農業は閉鎖的？？？



トップランナーは積極的に情報公開している



ノウハウ・知識・経験の**共有ができる！！**

# ネガティブな「足かせ」をポジティブな戦略に変える

## (2)収益性

<p>①委託生産方式 ・市場流通</p>	<p>これにより長年、農業は再生産コストに基づかない価格形成が当たり前とされてきました。出荷して売れてみないと生産者の販売価格がわからないという形態での取引が常識となっていたのです。経営上これほどリスクが高く、収益性の改善を阻む最大の要因はないでしょう。</p>
<p>②経営規模の零細性 ・小規模性</p>	<p>経営規模が小さすぎると、特定のマーケット以外では効率性・収益性の向上が図れません。また、設備投資負担も重くなったり、過労働の常態化を招くことにもつながります。(単なる大規模化ではなく)経営規模の適正化とそれに見合った設備投資戦略が重要な課題となってきます。</p>
<p>③生産工程管理 ・品質管理</p>	<p>農業では販売面ばかりに目を向けられがちですが、「ものづくり」である以上、利益の源泉は生産現場にこそあるのです。生産技術や生産コストの管理がまだまだ手付かずの状態です。他産業と同様に生産工程管理・原価管理を行い、ムリ・ムダを取り除き、適正化することで収益性の大幅な改善は十分に可能なのです。</p>
<p>④多付加価値化</p>	<p>農産物そのものの高付加価値化から2次産業・3次産業への進出も含めた高付加価値化により収益性の向上が可能となります。農産物そのものの高付加価値化は何も特殊な高価なものを生産することだけとは限りません。安いコストで大量に安定して約束どおりに生産できることも立派な高付加価値化になるのです。相手のニーズにあった生産を可能にする戦略と技術力を備えることができれば収益性の向上は難しいことはありません。「カテゴリズ(業態分類)」と「セグメント(顧客細分化)」を的確に行い、それを確実に実行することが大切なのである。</p>
<p>⑤農業特有の季節要因 ・特殊要因の排除</p>	<p>季節による売上の変動や労働力の偏りが収益を圧迫することがあります。繁忙期と農繁期をいかに平準化するのか？事業構築の上で欠かせない課題となってきます。どのようなカテゴリの生産を組み合わせるのか？自社の持つ経営資源をしっかりと認識した上で、時には事業ポートフォリオなどを活用するなど、独自の戦略を策定することが重要となってきます。</p>

## 強い農業現場を構築するための『10のキー・ファクター』

プロジェクトアウト (マーケットメイク)	生産工程管理 品質管理	コスト マネージメント	プライス メイキング
見える化	農業ビジネスの 【 10のキー・ファクター 】		人材育成
適正規模経営	事業ポートフォリオ 戦略	情報管理 システム	多付加価値化

## 1. 強い農業現場を構築するための『10のキー・ファクター』から

- (1) wish list の作成 (2) SWOT分析 (3) PPM (4) 見える化
- (5) 参考PP(事業計画策定、マーケティング)

## 2. 情報システム戦略

- (1) 情報管理の考え方 (2) 自社開発 (3) クラウドへ (4) 記録作業の排除
- (5) 正確な工数把握 (6) 記録から戦略へ

## 3. 生産工程管理・品質管理について

- (1) ものづくりの基本「5s」★
- (2) 現場カイゼン
- (3) 農業への「ものづくり」コンセプトの導入★★
- (4) ものづくり工学・品質工学の導入
- (5) 生産現場を思い浮かべながら「5s」をやってみよう

## 4. 研修制度の構築

- (1) 受入体制 (2) 研修生の確保 (3) 人材育成